

# ひなぎくの森

第3話  
文\*sawori

金曜日の19時。仕事が終わっておばあちゃん家に向かった。今日のお昼、フランソワがお店に来て「はっぴいえんど」のCDを買っていった。フランス人が日本の音楽を聞いてくれる、それってなんか嬉しいな。いつもより小走りで家に向かう。夜は少し寒くなってきた。10月の月が綺麗だ。

「ひなちゃん、おかえり。おでん作ったから、フランソワと食べんさい。」

「おばあちゃん、ただいま。おでん、やったー！」

上着を脱ぎながら、フランソワを探す。居間でおでんを食べていた。器用に箸を使っておでんを食べている金髪のフランス人・・・シュール。

「フランソワ、はっぴいえんどどうだった？」

「素晴らしかったです。ひなぎくのレコード屋の名前のとおり、evergreenな音楽。」

おばあちゃんがおでんを持ってきてくれて、3人で食卓を囲んだ。

「本当に珍しいよね、日本人でも知らない人たくさんいるよ。」

「フランスにもフェニックス知らない人いますから。とうだいもとくらし。」

「ははっ。」

不思議なことに、フランソワとは日本人の友達より話が通じる時がある。

「確かに、フェニックス繋がってくるね！はっぴいえんどをサントラに使ったソフィア・ Coppolaの旦那さん。トーマスカッコ良すぎだよねえ・・・」

「ひなぎく・・・トーマス好きですか？僕だってベルサイユ出身です！」

何故かのドヤ顔フランソワ。

「えっ、そうなんだー。いいなあベルサイユ、綺麗な街だよねえ。」

「ベルサイユのばら・・・ええ話じゃろう？おばあちゃん大好きでな、ベルばら。区の集会で、フランスのベルサイユからくる留学生のホームステイ先を募集しとるというから、すぐに立候補したんじゃ。」

「えー！そうだったんだ！」意外な真相だった。おばあちゃん（73歳）がベルばら好きの乙女とは！するとフランソワがおばあちゃんの手をとり、

「ありがとう、マリー・アントワネット（本名富美江）、フェルゼンは幸せ者でございます。」

そして手の甲にキス。デジャヴ？既視感。初日に私にしたやつ。

お母さん！この人天然の、フェルゼン並みのプレイボーイかもよ！

・・・しかし、

「わしゃフェルゼンは嫌いじゃ。オスカル様がええんじゃ。」

「おお・・・」

さすがの富美江、プレイボーイを一刀両断したのでした！

～つづく～

## \* ひなぎくの森のカルチャーその3 \* 「フェニックス」と「ベルサイユのばら」



### 『フェニックス』

パリ近郊ヴェルサイユで幼馴染として育った3人によって結成。4作目のアルバム『Wolfgang Amadeus Phoenix』は自らのレーベル“Loyaute”からの初リリース。この作品でグラミー賞を受賞した。

ボーカルのトーマス・マーズ（写真一番左）はソフィア・ Coppolaの旦那様！彼女の映画にはサントラで楽曲が使われることもしばしば。憧れのセンス良しカップル！

### 「ベルサイユのばら」

池田理代子先生による漫画作品。通称「ベルばら」。フランス革命前から革命前期のベルサイユを舞台に、男装の麗人オスカルとフランス王妃マリー・アントワネットらの人生を描く、史実を基にしたフィクション作品。この作品のおかげで、世界史のフランス革命のところはよく理解できた人も多いのでは？



富美江のお気に入りのおスカル・ド・フランソワ様。

（前回までのあらすじ）レコード店で働くひなぎく（23）の祖母の家にホームステイすることになったフランス人留学生フランソワ（18）は、映画オタクの王子様。音楽好きでもあり、ひなぎくとも仲良くカルチャー交流していきます。

\* sawori\*